

盆踊りの「輪」から広がる「和」。

やりましょう盆踊り。

2015年 実施報告書



やりましょう盆踊り実行委員会

■主催／河北新報社営業局 運営事務局／河北アドセンター



盆踊りの「輪」から広がる「和」。

やりましたよう盆踊り。

盆踊りで輪をつくり、東日本大震災で犠牲になった方の供養と鎮魂、そして復興へ向けてコミュニティをさらに結びつける事を目的とした「やりましたよう盆踊り」プロジェクト。

開催4年目となった今年は「夏まつり仙台すずめ踊り」での盆踊りの開催を皮切りに、仙台市若林区荒井地区での「やりましたよう盆踊り」の開催、「仙台七夕まつり」つなぎ横丁での「やりましたよう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」、登米市南方での「やりましたよう盆踊り」など総計6日間に渡って開催してきました。すずめ踊り、仙台七夕では地元宮城の方々と観光客と一緒に輪をつくり、七夕おどりと宮城県各地に伝わる盆踊りを踊り、全国に「宮城」の元気な姿を発信。若林区荒井、登米市南方では震災で離散した方々の再会や新たな親睦を生み、大人も子どもも笑顔で輝く光景であふれました。各会場には、6月～7月の期間開催した「盆踊り練習会」によって育成した踊り手ボランティア、唄い手・お囃子ボランティアの皆さまにもご参加いただき、夏のひとときを盛り上げていただきました。私たちはこの「やりましたよう盆踊り」の「輪」から、絆や笑顔の新たな「和」が広がる事を願ってやみません。ご協賛を頂いた各社さまをはじめ、盆踊りの運営にご協力をいただいたすべての皆さまに心より御礼を申し上げます。

平成27年9月

やりましたよう盆踊り 実行委員会

(主催／河北新報社営業本部、運営事務局／河北アドセンター)

<2015年度の開催日程>

やりましたよう盆踊り 盆踊り練習会

開催場所／河北新報社別館5階ホール ◎6月16日(火)～8月4日(火)

やりましたよう盆踊り 仙台市若林区荒井

開催場所／荒井東市営住宅敷地内 ◎8月1日(土) 15時～20時

やりましたよう盆踊り 夏まつり仙台すずめ踊り

開催場所／仙台駅東口宮城野通り「夏まつり仙台すずめ踊り」会場 ◎7月25日(土) 17時45分～19時30分

やりましたよう七夕おどり・盆踊り 仙台七夕

開催場所／つなぎ横丁 ◎8月6日(木) 18時～20時30分／8月7日(金) 18時～20時30分／8月8日(土) 18時～20時30分

やりましたよう盆踊り 登米市南方

開催場所／登米市南方仮設交流広場 ◎8月22日(土) 17時～20時30分

<踊り手支援> 2015 みちのく川崎花火フェスタ ◎7月25日(土) 15時～21時

仙台すずめ踊りとコラボレーション やりましょう盆踊り

⑤ 仙台すずめ踊り

4年目を迎える「やりましょう盆踊り」は、昨年の七夕まつりに続き、今年は仙台駅東口エリアで開催されている「仙台すずめ踊り」でも盆踊りの輪を作りました。仙台すずめ踊りの実行委員会様から、東口の夏祭りであるすずめ踊りに、“盆踊り”というコンテンツを取り入れていっそう祭を盛り上げていきたいとのご相談をいただき、今回開催に至りました。

仙台駅東口から楽天コボスタジアムへ向かう宮城野通りの一部区間を歩行者天国にし、盆踊りの時間に合わせて可動式櫓を通りの真ん中に設置。櫓の提灯に明かりが灯され、盆踊りが始まりました。盆踊り曲は、「七夕おどり」、宮城野区の



方に昔から親しまれている「相馬盆唄」、「宮城野盆唄」の3曲。盆踊り開催に向け、少しでも多くの近隣住民の方に参加してもらおうと、イベントホールをお借りして直前の練習会も開催しました。その甲斐あって、盆踊りは開始当初から100人近くの大きな輪をつくることができました。盆踊りが盛り上がるにつれ、日中のステージに出演していた留学生の皆さんや、盆踊りを懐かしむ地元住民の方々にも次々と輪に加わっていただき、踊りの輪は二重、三重に。仙台すずめ踊りは今年から2日間にわたり開催されましたが、第一日目のフィナーレを大盆踊り大会で華を添えることができました。



昨年に引き続き仙台七夕まつりとコラボレーションPart2

やりましょう七夕おどり・盆踊り

⑤ 仙台七夕

昨年に引き続き、今年も仙台七夕まつりの会場内、「つなぎ横丁」で祭の開催中3日間、盆踊りを開催しました。今年は亘理町浜吉田、山元町花釜の方々にご来仙いただき、ご当地盆踊りを踊るお手伝いをさせていただきました。他にも2日目はエフエム仙台の特別番組の出演者をゲストにお招きしたり、3日目にはさらに東京からスペシャルゲストを招いて

一緒に盆踊りを踊ったりと、新しい演出も盛り込みました。3日間ともに、お囃子はお声掛けをさせていただいた有志のお囃子の方々に、また唄と踊りは2カ月以上前から練習を重ねてきたボランティアの方々に依頼。生唄・生演奏ならではの音色がつなぎ横丁に響きわたりました。



踊り手・歌い手・お囃子育成練習会

盆踊り会場を盛り上げるために、昨年より開催している「盆踊り練習会」。昨年に引き続き参加頂いた方や、広告を見て今年から参加頂いた方まで、幅広い年代の方にお越しいただきました。本番では練習の成果を存分に発揮。始めて盆踊りに触れる観光客や、お子さんに踊りを指導する場面も見られ、宮城の盆踊りを広める人材としてご活躍頂きました。

- ◆開催期間／6月16日(火)～8月4日(火)
- ◆開催場所／河北新報社別館5階ホール
- ◆参加費／無料

「踊り」の練習 (全6回)

◆開催時間／毎週火曜19:00～21:00

- ①6月16日(火)
- ②6月30日(火)
- ③7月 7日(火) 指導／星とよ子さん(七夕踊り、宮城野盆唄、相馬盆唄)
- ④7月14日(火)
- ⑤7月28日(火)
- ⑥8月 4日(火)

練習曲目

七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄、がんばれ援歌



「民謡」の練習

◆開催時間／水曜19:00～21:00

- ①6月24日(水) 指導／弓場クニさん
- ②7月 1日(水) 指導／弓場クニさん
- ③7月 8日(水) 指導／弓場クニさん(ゲスト参加／お囃子の皆さん)

練習曲目

七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄、がんばれ援歌



「着付け」指導

◆開催時間／火曜 男性17:30～18:00、女性18:00～19:00

- ①7月 7日(火) 17:30～19:00 指導／中野由美さん
- ②7月14日(火) 17:30～19:00

浴衣支援

日本女子大学の被服学科同窓会「衣(きぬ)の会」、「公益財団法人日本フォークダンス連盟」を中心に、全国の団体や個人の皆さまから浴衣や帯のご提供を頂きました。家庭に眠っていた浴衣、小さくなって着られなくなってしまった浴衣、袖を通してない新品と、合わせて240着の寄付を頂き、若林区荒井会場と登米市南方会場に贈呈しました。



7/25(土) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・小川)

in 夏まつり仙台すずめ踊り

◆開催地／仙台駅東口宮城野通り(夏まつり仙台すずめ踊り)
◆開催時間／17時45分～19時30分

発展著しい仙台駅東口のビル街に、懐かしい盆踊りのメロディーがこだまする。
アジア各国の方たちも加わり、国際交流の輪をも広げた熱い夜。

仙台の夏の「踊り」の風物詩として平成15年から始まった「夏まつり仙台すずめ踊り」。西公園で開催した初年度以降、仙台駅東口・宮城野通りに舞台を移し、仙台駅東口商工事業協同組合を核とした「夏まつり仙台すずめ踊り実行委員会」の皆さまの尽力により、毎年7月下旬開催してきました。今年から開催日程が2日間となり、初日の7月25日(土)は日中にすずめ踊りのほかアジア各国の皆さまを招聘した「伊達アジアフェス2015」が開催され、各国の民族舞踊や歌、演奏が披露されました。

午後3時にはイベントホール松栄にて盆踊り本番に向けた「盆踊り練習会」を1時間開催。アジアフェス参加者や夏まつり仙台すずめ踊り来場者が輪を作り、熱心に踊りを練習して、本番への踊りの機運を高めました。

日中、さんさんと暑く辺りをまぶしく照らしていた陽が次第に落ち始め、いよいよ17時45分から「やりましょう盆踊りin夏まつり仙台すずめ踊り」がスタート。踊りの演目は「相馬盆唄」に「宮城野音頭」「七夕おどり」の3曲。すずめ踊りの演者の皆さまにアジアフェス参加の各国の皆さま、そして来場者が櫓を開んで大きな輪を描き、一緒になって踊っている姿はまさに色とりどりで情緒に溢れていました。連日、30度をゆうに越す真夏日に見舞われた仙台。夜を迎えて暑さも和らぎましたが、盆踊り会場は時間の経過とともに踊り手たちの熱気でヒートアップ。着々と再開発が進む仙台駅東口に懐かしい盆踊りのメロディーがこだまし、国籍を越えた踊りの輪が、親睦の輪に大きく広がった熱い一日でした。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／蔵王町様／観光PR、グッズ販売等 ○三幸学園様／手づくり射的など ○住宅情報館様／うちわ配布
○日専連ライフサービス様／チラシ配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」てぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／40脚 ○発電機／4台 ○音響／一式

出店内容

○わたあめ ○射的 ○水ヨーヨーすくい ○スーパーボールすくい ○輪投げ



三幸学園様の出展ブースでは学生が中心になって子ども向けの手作り射的などが好評を博し、まぶしい笑顔があふれていた。



蔵王町出展ブース。蔵王町の物産品の販売や「ざおうさま」グッズの販売が行われた。イメージキャラクター「ざおうさま」も登場し、会場を盛り上げた。



新寺で人気のイタリアン料理店 VIVACE YASABURO 様による飲食ブース。日高見牛の串焼きや自家製ソーセージ、ワインが人気を博した。



やりましょう盆踊り本部ブースでは協賛社様の専用うちわに専用手ぬぐい、チラシなどノベルティを配布。多くの来場者に喜ばれた。



宮城野通りに設けられた常設ステージでは「伊達アジアフェス2015」としてアジア各国の舞踊や歌、演奏が披露され、来場者も楽しんでいた。



イベントホール松栄にて15時より「盆踊り練習会」を開催。はじめは見よう見まねだった踊りも最後にはビッタリ息が合い、本番に向けて準備は万全。



再開発計画や東西線開通など発展著しい仙台駅東口。街の活気に呼応するように普段は交通量が多い宮城野通りだが、この日はばかりは櫓を中心に人々が集い、踊り、輪を作った。



通行人やご近所の皆さんも輪に入って踊り、幾層もの輪を広げる。誰でも気軽に入って踊れるのがまさに盆踊りの醍醐味。



ヒジャブと呼ばれるヴェールを巻き、浴衣を身に付けるアジアの方も。異国文化の組み合わせがマッチし、会場にオリエンタルな雰囲気を出していた。



提灯の灯りと夕焼けがマッチして美しい眺めが櫓から見えた。宮城野通りの中心を上から眺める機会は滅多にないので踊り手たちも感嘆の声を上げていた。



今年の「夏まつり仙台すずめ踊り」は2日間総計で10万人近い来場者があったという。東口の発展とともに、これからますます盛り上がっていくことだろう。



6月～7月に毎週開催していた盆踊り練習会参加の踊り手・唄い手・お囃子ボランティアが大活躍。生演奏・生囃子・生唄が祭り風情を格段に盛り上げた。



踊りの輪の中には艶やかな花魁(おいらん)の姿も。来場者はもちろんアジア各国の皆さまの大きな注目を集め、記念撮影のシャッターがひっきり無しに切られていた。



会場にはいつも笑顔があふれていた。「仙台では盆踊りを踊る機会が少ないから嬉しい」「初めて盆踊りを踊ったがこんなに楽しいものだとは」とは参加者の弁。



暗くなったビル街にやわらかな光で浮かび上がる櫓。「あそこで盆踊りやってる!」と、この櫓が遠くから歩いてくる方たちの目印になった。



19時30分のフィナーレを迎えると、踊りに参加していた皆さんから多くの歓声が上がった。最後まで笑顔があふれる素晴らしい雰囲気になった。

8/1 (土) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・佐藤)

in 仙台市若林区荒井

◆開催地／荒井東市営住宅敷地内
◆開催時間／15時～20時 ◆来場者数／約300名

二つの町内会による、初めての合同夏祭り。 祭り囃子の音に惹かれ盆踊りの輪に加われば、自然と笑みがこぼれてくる。

震災で集団移転を余儀なくされた、荒浜などの住民が暮らす荒井地区には、昨年9月に発足した「荒井東町内会」約200世帯と、今年3月発足の「荒井広瀬町内会」約130世帯が暮らしています。震災以前は各地域で行ってきた荒井地区の夏祭り。住民が荒井で過ごす初めての夏に、お互いの町内会の住民同士の交流を深めようと、「荒井東」と「荒井広瀬」の二つの町内会で共同開催することに。

記念すべき第一回目の夏祭りは、町内会のこともたちによる神輿担ぎでスタート。ボランティアが出店した野菜市や綿菓子の出店などは大勢の住民で賑わい、全国各地からプレゼントされた浴衣に着がえ親子で楽しむ姿も見られました。

日暮れとともに始まった盆踊りは、定番の七夕おどりから。この日に向けて集会所で練習を重ねた住民が、輪の先頭に出て若い世代に

踊りを教える場面も見られ、会場となった市営住宅の中庭には、盆踊りの輪が二重、三重と広がり、和やかな雰囲気広がりました。七夕踊りに続いて踊ったのは相馬盆唄。この日は、荒井地区にお住まいの谷さん直伝の踊り方で。関西出身の歌手が被災地に向けて制作した「がんばれ援歌」では、踊りの振りの中で突き上げる拳にも力強さを感じました。

二つの町内会が力を合わせて作り上げた今年の夏祭り。自分の町を思う気持ちがひとつになった時、たとえ互いの名前を知らずとも輪になり共に踊ることで、たちまち家族のような心の繋がりをもち作り得るのかもしれません。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／フェニーチェホーム様 トートバッグ・うちわの配布、企業PR活動 ○日専連ライフサービス様／チラシ配布 ○河北仙販荒井支店／抽選会など
○コクヨ東北販売様／オリジナルノートの配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」てぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／4張(追加分含む) ○照明／投光器2台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／30脚 ○発電機／4台 ○音響／一式

レンタル備品

○わたあめ ○ポップコーンマシン ○水ヨーヨーすくい ○ストラックアウト ○スーパーボールすくい



お祭りが始まる前に集まった町内会の子どもたち。一人ひとりが手にする、色とりどりの文字を繋げると、「全国のみなんさんありがとう」のメッセージになった。



今年7月に創刊された、七郷・荒井エリア限定ミニコミ誌「あらっE」を片手に、「荒井を盛り上げよう!」と河北新報社 販売局長の練生川氏。



町内会手づくりの神輿を担ぐ子どもたち。「わっしょい!わっしょい!」元気の掛け声とともに、夏祭りがスタート。



復興公営住宅の敷地を会場に、荒井東町内会と荒井広瀬町内会が合同で行う第一回目の夏祭り。会場にある櫓を見て、日が暮れる前から「踊りたい」とはしゃぐお子どもも。



河北仙販荒井支店によるガラポン抽選会には、200名以上が参加。地元の方との交流に繋がった。



実行委員から貸し出され、ボランティアによって提供された綿あめは、子どもから大人まで大人気だった。



荒井で過ごす初めての夏。夕暮れ空に響く祭り囃子が、地域の方々を呼び寄せ、踊りの輪を少しずつ大きくした。



飲食ブースやゲームブースが祭りに賑わいを添えた。



会場内の集会所に飾られた、住民の方々手づくりの七夕飾り。神戸市内の小学校から贈られた短冊には「笑顔あふれる東北になりますように」の応援メッセージが。



コクヨ東北販売株式会社様よりご提供頂いたドラえもんノート、地域のお子様にプレゼント。「夏休みの思い出を描きたいな」と言ってくれたお子どもも。



会場のほど近くに見えるのは、12月に開業予定の地下鉄東西線荒井駅。商業施設の建設が進み、少しずつ町が活気付いているのが分かる。



集会所で練習を重ねた住民が、輪の先頭立って踊る。「七夕おどり」や「相馬盆唄」を踊りながら、それぞれの夏に思いを馳せた。



島倉千代子さんの「七夕おどり」の歌声に合わせて、「ひとつの、ふたつの、みっつの、よっつ」と、声を合わせて踊る住民の皆さん。



今まで挨拶するだけだった住民同士も、今日くらいは、と声を掛け合って踊りの輪に加わる。中には、50年ぶりに盆踊りに参加したという方も。



櫓の上に登り、積極的にお囃子に加わるお子どもも。和気あいあいとしたムードが会場に流れる。



初めは周りで眺めていた人が、賑やかな雰囲気惹かれて少しずつ踊りに加わると、あっという間に2重、3重の輪に広がった。

8/6 (木) やりましょう七夕おどり・盆踊り

(レポート／実行委員会・金子)

◆開催地／仙台市つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
◆開催時間／18時～20時30分

仙台七夕初日。お囃子が鳴り唄声が響くつなぎ横丁で踊りの輪がひろがっていく。 亘理町吉田地区の皆さんと共に踊る、夏の夜。

今年の「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」は、「七夕おどり」で始まりました。艶やかな浴衣姿の杜の都親善大使の3人には櫓の上で踊りの振りの見本になってもらい、さっそく輪を作ってくれた会場の人々も見よう見まねで七夕おどりを踊ります。会場の大通側入り口付近には、「蔵王町」「花王」両協賛社様の出展ブースがあり、「蔵王町」様には「ざおうさま」の着ぐるみをはじめ蔵王町の観光PRで会場を盛り上げていただき、「花王」様には女性来場者へのヘアスプレーなどを使ったヘアセットのサービスが大好評でした。

「七夕おどり」に続いて、去年のやりましょう盆踊り開催地、亘理町吉田地区から約20人の方々にご参加いただき、曲目も「亘理音頭」に変わります。吉田地区の方々、色とりどりの浴衣姿でそれはもう華やか。女性らしさを感じさせる身振りの多い「亘理音頭」を会場一帯となって踊り、盛り上がりました。少し踊り疲れてきた頃には、「仙台すずめ踊り

伊達の舞」の総勢約30人のみなさんに、迫力満点のすずめ踊りを披露していただきました。

日も落ち櫓の提灯の明かりがビル群に浮かび上がり、祭の雰囲気がいっそう熱を帯びてきた折、亘理町出身の美波京子さんに唄っていたのは仙台七夕テーマ曲「七夕おどり」。唄声に合わせ櫓の下にいる人もみなさん自然と身体が動きます。最後は美波京子さんご自身も自分の曲にあわせて七夕おどりを踊っていらっしやいました。この時ふと気が付けば、会場には始まった当初とは比べ物にならない位の沢山の方々で会場はびっしり。駆けつけてくださった踊り手ボランティアの方はもちろん、市民や観光客の方々が次々踊りの輪に加わり、驚くほど幾重にも重なった大きな輪ができていました。仙台市民に昔から親しまれている「相馬盆唄」「宮城野盆唄」を交えながら「七夕おどり」を踊り続け、初日ながら大いに盛り上がりました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／蔵王町様／観光PR、抽選会 ○花王様／ヘアセットのお直し ○住宅情報館様／うちわ配布 ○日専連ライフサービス様／チラシ配布
○フェニーチェホーム様／パンフレット配布、うちわ配布、ポケットティッシュ配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」てぬぐい、うちわの配布
○着ぐるみ「かほピョン」出演

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／3張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／16台 ○椅子／26脚 ○発電機／4台



会場設営中。天候を心配しながらの櫓の組み立ても、順調に進んでいく。



杜の都 親善大使の美女3人に踊りの見本になってもらう。



老若男女、みなで踊れる。だから盆踊りは楽しい。



思いつきの浴衣姿で美しく装い、一所懸命盆踊りを楽しむ。



亘理町出身の美波京子さん。唄声に聴き惚れて。



会場で配布されたうちわと手ぬぐいを身につけて、よりいっそう祭の雰囲気を。



初日のクライマックス。踊り手も囃し手も唄い手もひとつになる。



盆踊り曲を唄う幾度も練習を重ね、唄の先生と共に、自信を持って。



お囃子の音色も調子も小気味よく、心地よく。



いつのまにか、踊りの輪は二重に、歩道沿いにも、見物客がぎっしり!



来場者も初めて踊る、亘理町の亘理音頭。振り付けが楽しそう。



亘理町吉田地区のみなさん。櫓の上で、「亘理音頭」を踊って下さいます。



夕暮れに浮かび上がる色とりどりの浴衣姿。



後半の七夕おどりは、女性の唄い手2人による、生唄に合わせてのエンドレス七夕おどり。祭りもクライマックスへ。



かほピョンにも登場し、最後は会場の人々と一緒に「七夕おどり」。



洋服でも、浴衣でも、観光でも、地元でもみんなで作る、踊りの輪。

8/7 やりましょう七夕おどり・盆踊り

(金) 仙台七夕

(レポート／実行委員会・佐藤)

◆開催地／仙台市つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
◆開催時間／18時～20時30分

仙台七夕に彩りを添えた盆踊り。 始めて踊る人も、ベテランさんも、気取らず一緒に楽しめるのが盆踊りの魅力。

70周年を記念して、より一層の盛り上がりを見せた今年の仙台七夕。仙台の街は、色とりどりの七夕飾りで埋め尽くされ、連日様々なイベントが開催されていました。昨年から七夕まつりの3日間に行われている「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」もまた、会場である「つなぎ横丁」に彩りを添えました。

2日目は、歌手の美波京子さんの生歌による「七夕おどり」でスタート。踊り手ボランティアが披露する軽快な踊りとメロディーに、思わず足を止める人も。地元の人は懐かしそうに、そうでない人も子供心を思い出したようにじっと立ち止まって踊りに見入り、中には「初めて見たけど、楽しそう」と、輪に加わる若者や海外の方も多くいらっしゃいました。

1日目に引き続き、2日目もさまざまなゲストが登場して会場を大いに盛り上げました。初めてお越しいただいたのは、2012年に本事業で盆踊り支援を行った山元町・花釜地区の皆さん。花釜音頭保存会率い

る地域の皆さんに櫓の上で踊りの指導をしていただくと、参加者は難しい振付ながら楽しそうに踊っていました。また、踊りの最後には「来年も花釜音頭を広めに来るからね」と元気に宣言するシーンも。2日目にも参加いただいた「せんだい杜の都親善大使」のみなさんは、流れるような美しい踊りとしぐさで、会場に華を添えました。続いてお越しいただいたのは、Date fmの人気番組「AIRJAM Friday」より、タレントの本間秋彦さん、アナウンサーの名護ひとみさん、アイドルのアイリスさん。ゲストの軽妙なトークで会場はさらに和やかな雰囲気になり、最後はゲストと全員で七夕踊りを踊りました。

練習会に参加したボランティアによる生の歌とお囃子が、広場の雰囲気をより一層盛り上げると、輪に入りきれないほどの賑わいを見せ、この日は「七夕踊り」、「花釜音頭」、「相馬盆唄」をたっぷり楽しみました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／蔵王町様／観光PR、抽選会 ○花王様／ヘアセットのお直し ○住宅情報館様／うちわ配布 ○日専連ライフサービス様／チラシ配布
○フェニーチェホーム様／パンフレット配布、うちわ配布、ポケットティッシュ配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」でぬぐい、うちわの配布
○着ぐるみ「かほピョン」出演

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／3張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／16台 ○椅子／26脚 ○発電機／4台 ○音響／一式



踊り手ボランティアの動きに合わせて、見よう見まねで踊るお子さん。



踊る人も、見ている人も自然と笑顔になる盆踊り。沿道で見物している人も、踊り手に誘われて次第に輪の中へ。



はにかみながらも元気に踊る若者たち。踊ってみたい想像以上に楽しい!との声も。



会場に華を添えた「杜の都親善大使」の皆さん。「花釜音頭」のいちごを摘み振りを優雅に踊る。



山元町・花釜音頭保存会の皆さんによる、ユーモアたっぷりの踊りのレクチャー。



山元町・花釜地区の囃し手の生演奏で踊れば、現地の雰囲気を感じ取ることが出来る。



踊り手ボランティアの先導で、思い思いの盆踊りを楽しむ子供たち。



蔵王町のイメージキャラクター「ざおうさま」も登場し、会場を盛り上げた。



この日ブース出展頂いた宮城県蔵王町様のテントの周りに集まる観光客の皆さん。特産品が当たる抽選会で大いに盛り上がった。



Date fmの人気番組「AIRJAM Friday」より、タレントの本間秋彦さん、アナウンサーの名護ひとみさん、アイドルのアイリスさんを迎えて会場も大盛り上がり。



「これからもずっと盆踊りを踊るように、元気でいくなっちゃん!」と、お揃いの法被を着て、キビキビ踊る花釜地区の皆さん。



歌い手の歌に合わせて踊る、来場者の皆さん。浴衣を着た方の参加も目立った。



「見ているうちに踊りたくなってきたわ!」と、ヒール姿で踊る方も。



海外から観光に来た女性も輪に混ざって。盆踊りのリズムにはグローバルな魅力があるのかもしれない。



仙台出身の人も、観光で初めて仙台に来た人も、一緒になって一期一会の「七夕おどり」を楽しむ。



この日ご参加頂いた、踊り手・歌い手ボランティアの皆さん。昨年に引き続きお越し頂いたベテランの方も。

8/8 やりましょう七夕おどり・盆踊り

(土) 仙台七夕

(レポート／実行委員会・小川)

◆開催地／仙台市つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
◆開催時間／18時～20時30分

誰もが楽しみにしていた仙台七夕も今日が最終日。
東北の短い夏を惜しむように、踊りの輪が幾層にも連なりました。

毎年200万人以上が訪れる東北三大祭りのひとつ「仙台七夕」。今年は戦後、七夕まつりが復活して70周年の節目の年でもあり、例年に増して一層、宮城県内外の期待度や注目度が高まり、特に今年の最終日は土曜日ともあって、多くの皆さまが仙台七夕に訪れていました。

1日目・2日目ともに晴天の仙台七夕でしたが、最終日のこの日は朝からぐずった天気。時折強く雨も落ちましたが開催時間が近づくとつれ、空模様も落ち着きを見せ始め、18時の開演時には心地よい風が吹く、盆踊りにうってつけの天気。

3日目もスタートは美波京子さんによる「七夕おどり」から。杜の都親善大使の3人も加わって、つなぎ横丁は一層の賑わいと華やきに包まれました。そして、18時55分からは仙台七夕おまつり広場のスペシャルゲストであり、東京エフエムの人気番組「あ、安部礼司」の出演者

である、刈谷勇さん、大場嘉門さん、飯野平太さん、姫川皐月さん、鞠谷アンジュさんの5名のキャラクターが「やりましょう七夕おどり・盆踊り」会場に登場。つなぎ横丁は熱気と興奮に包まれ、実に多くの皆さまが「あ、安部礼司」の出演者の方々の軽妙なトークを楽しんでいました。出演者の方々はその場でレクチャーを受けた「七夕おどり」を来場の皆さまと一緒に踊り、会場一体となって仙台の夏の夜を盛り上げていました。

3日間、つなぎ横丁を舞台に開催してきた「やりましょう七夕おどり・盆踊りin 仙台七夕」。いずれの日も、つなぎ横丁の会場には多くの方の笑顔があふれ、70周年の仙台七夕を楽しんでいました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／蔵王町様／観光PR、抽選会 ○花王様／ヘアセットのお直し ○住宅情報館様／うちわ配布 ○日専連ライフサービス様／チラシ配布
○フェニーチェホーム様／パンフレット配布、うちわ配布、ポケットティッシュ配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」てぬぐい、うちわの配布
○着ぐるみ「かほピョン」出演

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／3張 ○照明／投光器2台、LEDライト8台 ○アイスボックス ○テーブル／16台 ○椅子／26脚 ○発電機／4台 ○音響／一式



浴衣に身を包み、盆踊りを楽しみに待つ。開演前から既に多くの方が櫓を囲んだ。



会場に華やぎをもたらした杜の都親善大使の3人と、子どもたちに大人気だった河北新報社のイメージキャラクター「かほピョン」。



太鼓を演奏したお囃子ボランティアのお二人。ダイナミックな振りや太鼓の勇壮な音が祭りを盛り上げ、多くの来場者の目を引いた。



最終日のスペシャルゲスト「あ、安部礼司」出演者の方々が櫓に登場すると、つなぎ横丁は大歓声に包まれた。出演者の皆さまも会場の熱気に興奮気味。



「あ、安部礼司」出演者の方々の軽妙なトークで、会場は爆笑の渦に。「ラジオでいつも聴いてる!」「本物と会えて嬉しい!」の声がそこかしこで。



「七夕おどり」を踊る「あ、安部礼司」出演者の方々。「もう1回踊ろう!」「盆踊りがこんなに楽しいなんて!」と出演者の方々も心から楽しんでいた。



七夕まつりの3日間、会場を盛り上げた踊り手・唄い手・お囃子ボランティアの皆さまで記念撮影。



「あ、安部礼司」出演者の方々と会場が一緒になって「七夕おどり」。踊りの輪は幾層にも広がり、大きな盛り上がりを見せた。



エフエム仙台の女性アナウンサー 3人も駆けつけ、「あ、安部礼司」のスペシャルタイムの盛り上げの一翼を担った。



専用てぬぐい・専用うちわは「あ、安部礼司」の出演者の方々にもお渡しし、実際に使用して踊ってもらった。



時間の経過とともに飛び入りで踊りに参加する方々も増え、所狭しと大勢の皆さんが盆踊りを楽しんでいた。



最終日は土曜日ということもあって、お子さまたちの来場が多く、見よう見まねで盆踊りを楽しんでいた。



専用てぬぐい・専用うちわは踊り手ボランティアの皆さんが身につけ、会場で踊った。会場でも来場者の皆さんにお配りした。



つなぎ横丁入り口に設けられた大きなハート型のモニュメント。カップルやご夫婦をはじめ、多くの方がこのモニュメントの前で記念撮影していた。



フィナーレの「七夕おどり」は、唄い手ボランティアの可愛らしい女性3人の生唄で。フレッシュな歌声で七夕まつりの3日間が締め括られた。



すべてのプログラムが終了し、おまつり広場ステージではグランドフィナーレが行われた。感極まり、涙を拭く踊り手ボランティアも。

8/22(土) やりましょう盆踊り

(レポート／実行委員会・金子)

📍登米市南方地区

◆開催地／登米市南方町鴻ノ木197 南方仮設住宅交流広場
◆開催時間／17時～20時 ◆来場者数／約300名

北海盆唄、相馬盆唄、トコヤッサイに、おいとこロック、次々流れる、盆踊り曲。 登米南三陸の「ふれあい盆踊り大会」で、親交を深める。

今年の「やりましょう盆踊り」プロジェクト、ファイナルは、南三陸町志津川の出身の方が入居する、登米市南方仮設住宅の目の前の広場で開かれた「ふれあい盆踊り大会」でした。震災で被災され、同じ地域の住民の皆さんが住もう南方仮設住宅。震災から4年の間に入居者は徐々に減っているものの、今なお仮設住宅での暮らしを続けている住民の方々は、昨年までは自力で夏祭りをしていたようです。しかし入居者の高齢化や減少に伴い負担が大きくなり、今年は開催を断念する予定だったとのこと。けれども祭を開催し、盆踊りで住民の気持ちを向上にしたいとの思いを持つ方々から要望をいただき、今回、櫓一式や大太鼓、音響や照明の他、射的、水ヨーヨーなどのアトラクション、運営関係の設備一式をお貸ししました。

当日の午前中まで降り続けていた雨で開催が心配されましたが、午後になると雨はやみ、地面も水はけがよく開催時刻を迎える頃には乾いてきました。開会のあいさつには登米市長と南三陸町長からも祝辞をいただき、素晴らしいコンディションでスタートすることができました。

協賛社ブース出展内容

○協賛社ブース／セルコホーム様 うちわの配布、水ヨーヨーすくい、セルコペアーでの企業PR活動 ○フェニーチェホーム様／うちわ配布
○日専連ライフサービス様／チラン配布 ○コクヨ東北販売様／オリジナルノートの配布 ○実行委員会／運営テント、「やりましょう盆踊り」てぬぐい、うちわの配布

レンタル備品

○櫓／一式 ○太鼓／一式 ○テント／8張(追加分含む) ○照明／投光器4台 ○アイスボックス ○テーブル／10台 ○椅子／30脚 ○発電機／2台

出店内容

○ふあふあ森のお家ミニランド ○スーパーボールすくい ○射的 ○輪投げ

主催者側の様々な努力と創意工夫により、会場では盆踊りの他にも浴衣コンテストにカラオケ大会、大抽選会などの催しが盛り沢山。飲食の屋台も多数出展し、早い時間から沢山の住民の方で会場は大賑わいでした。協賛社のセルコホーム様もイメージキャラクターの「セルコペアー」の着ぐるみと水ヨーヨーの出展で子供さんをはじめ親子連れの来場者に大人気。会場では他にも、射的や輪投げ、バルーンセットなどが立ち並び、子供たちが列をつくり夢中になって遊ぶ姿が見られました。

盆踊りは南三陸町でなじみの深い「相馬盆唄」「北海盆唄」をはじめ、紅白の棒を両手に持って小気味よく踊る「トコヤッサイ」、また地元の女性の方々にコンテストも開催している「おいとこロック」などの曲が次々とかかりました。来場者の中には、メロディを聞いただけで踊りを思い出す方が沢山。次々曲が変わっても、みなさん楽しそうに踊っていらっしゃる姿が印象的でした。最後は大抽選会で締めくくられ、会場には最後まで、沢山の方で賑わっていました。



打ち鳴らされる大太鼓、広がる輪。“これから”に向かって皆でつくる輪。



スーパーボールは上手にすくうのがなかなか難しい…。



まずは踊ってみる、トコヤッサイ。初めて踊る皆さんを巻き込んで。



地元の方の踊るトコヤッサイ。身体にしみ込んでいる踊りは久しぶりでもなんのその。



盆踊り大会のフィナーレを飾る大抽選会の景品群。豪華賞品が沢山並ぶ。



登米市長の布施孝尚氏より祝辞をいただく。



地元女性の有志による、創作太鼓が披露される。



小さい子供たちに大人気だった「ふあふあ森のお家ミニランド」。



大小さまざまな大きさや模様の水ヨーヨーに夢中。



輪投げの景品は可愛いシールやおもちゃ。子供たちは全部無料!



会場内の休憩所。踊りを見たい方や、一休みしたい方々の為に用意された。



一生懸命、リズムに合わせて。



四方に流れる提灯が、櫓と会場全体を照らし、祭らしい風景に。



櫓の上には大太鼓、カラオケ機。下には抽選会の景品たちに、催し物の看板が並ぶ。



いつの間にか、広い会場に3重の輪が。盆踊りに参加してくれる方も増えてきた。



盆踊りに参加するのに資格はいらない。どんな方でも大歓迎♪一緒に輪を作って踊りましょう。

7/25(水) やりましょう盆踊り (レポート／実行委員会・小野)

in みちのく川崎花火フェスタ2015

- ◆開催地／ポートピア川崎特設会場
- ◆開催時間／15:00～21:00 小雨決行

第6回手筒花火と打揚げ花火の饗宴

今年もポートピア川崎様の依頼で参加させていただきました「みちのく川崎花火フェスタ2015 手筒花火と打揚げ花火の饗宴」。3年目の今年は踊り手講師として実行委員会と野の愛弟子吉木氏が初参加。アツイ夏を盆踊りで盛り上げてきました。

この「みちのく川崎花火フェスタ」は川崎町、川崎町観光協会、ポートピア川崎様などが運営主体となり、本格的な夏の到来を告げるこのエリアの夏の一大イベントで、川崎町民はもとより、仙台市エリア、山形市エリアなど広域から集客があります。

午後3時よりあたりに響く大きな開始花火の音を皮切りに、ポートピア川崎イベント会場には続々と人の波が押し寄せてきます。会場を取り囲む産直の物産ブース、レースポートのディスプレイ、「三浦京子&ハニーシックス」のステージイベント、盛りだくさんのお楽しみイベントの数々。

そして、会場の中央には盆踊りの櫓がデンっ、と。

目玉は毎年最高潮の盛り上がりを見せる「蒲郡西町に組」による「手筒花火」。火薬を詰めた孟宗竹に縄を巻き締め、手筒衆が命懸けで巨大な火柱を噴出させます。火柱が頂点に達すると「ハネ」と呼ばれる地面に吹き出す爆発で大歓声が。かなりの見ごたえです。

その開始までに行われる盆踊り。今年で3回目の効果でしょうか、昨年よりも浴衣で参加するお子様や女性の姿が多く見受けられます。おなじみの「七夕おどり」は簡単な振り付けと吉木氏の親切な解説で、徐々に輪は大きくなり、櫓の上で太鼓を叩く阿部氏の力も入ります。

盆踊りと花火…この夏のイベント、今年も川崎町に確かな夏の足跡を残しました。



今年は浴衣姿の女性参加も多く。



子供たち!



お兄さん!



みんなで盆踊り!



阿部氏と吉木氏。



勇ましい阿部氏の太鼓。



夕暮れに浮かぶ提灯。



豪快な手筒花火。輝く火の粉が夜空にまった。



夜空に咲く大輪。

やりましょう盆踊り 広告展開

開催告知および盆踊り練習会告知広告

河北新報朝刊・全5段モノクロ広告スペースで4月23日(木)5月24日(日)の2回にわたって、本年度の「やりましょう盆踊り」および「盆踊り練習会」の開催告知広告を掲載しました。



▲河北新報朝刊4月23日(木)掲載 全5段モノクロ広告



▲河北新報朝刊5月24日(日)掲載 全5段モノクロ広告

開催告知広告

7月23日(木)、河北新報朝刊全15段カラー広告スペースで本年度の開催告知広告を掲載しました。浴衣に身を包んだ女の子をメインに、夏祭りをイメージさせる太鼓や花火などのモチーフをちりばめ楽しさを感じさせる内容で事業を紹介。また、6月16日(火)から8月4日(火)の2か月間に開催された「盆踊り練習会」の報告も紙面に掲載しました。



▲河北新報朝刊7月23日(木)掲載 全15段カラー広告

開催報告広告

9月9日(水)、河北新報朝刊全15段カラー広告スペースで本年度の開催告知広告を掲載しました。開催告知広告に登場した女の子をメインに、「盆踊り練習会」、「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」、「やりましょう盆踊り」の様子を写真で紹介。



▲河北新報朝刊9月9日(水)掲載 全15段カラー広告

特集記事



大仙台圏に44万部発行するフリーペーパー「河北ウィークリーせんだい」、7月30日号の中面特集として「戦後復活70回記念 仙台七夕おまつり広場2015年プログラム」を発行。会場内のイベントブース「踊りましょう通り」として本イベントを紹介。

◀河北ウィークリーせんだい7月30日号中面特集
「戦後復活70回記念 仙台七夕おまつり広場2015年プログラム」



練習会開催告知広告

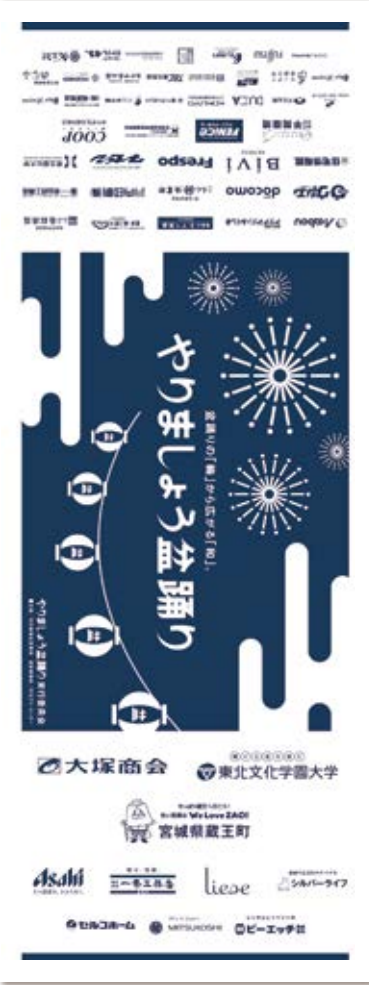


練習会の周知徹底を図ることで、人々の交流の場を広めたいという思いの元、株式会社シルバーライフ様のご協力により、やりましょう盆踊り練習会の開催告知広告を賜りました。

◀河北ウィークリーせんだい
6月25日号中面特集

やりましょう盆踊り 各種ツール

オリジナル手ぬぐい



仙台の伊達文化の染め技法を今に引き継ぐ「永勘染工場」による、ご協賛各社様のロゴを染めたオリジナル手ぬぐいを2,000枚製作。頭や首に巻いたりと多くのご来場の方に使用されました。

特別協賛手ぬぐい

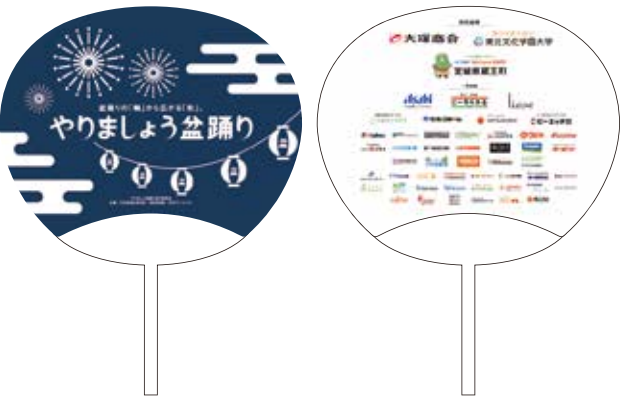


▲宮城県蔵王町様

▲大塚商会様

オリジナルうちわ

今年は祭りの追加アイテムとしてご協賛各社様のロゴをカラーで配した「やりましょう盆踊り」オリジナルうちわを製作。各会場に約200枚配布し、盆踊りにご来場いただいた方に人気を博した。



特別協賛うちわ



◀大塚商会様

◀宮城県蔵王町様

◀東北文化学園大学様

やりました盆踊り 各種ツール

開催告知ポスター

「やりました盆踊り」開催告知ポスターを互理町・唐桑町の2種類を作成し、自治会に提供。開催地の町内の各所に展示していただきました。



会場設置看板

【設置式機用看板】正面／裏／側面(特別協賛面)／側面(一般協賛面)



全会場の櫓にご協賛各社様のロゴをレイアウトした看板を提出。ご来場いただいた方の目に留まる場所に設置したことで、協賛各社様のPRにも繋がりました。



【可動式機用看板】側面(特別協賛面)／側面(一般協賛面)



やりました盆踊り 各種メディアでの取り上げ



▲河北新報朝刊／8月7日掲載記事



▲河北新報朝刊／8月23日掲載記事



▲河北新報朝刊／8月2日掲載記事



▲河北新報ウィークリー／6月25日発行号



▲河北新報ウィークリー／8月6日発行号



▲宮城県復興ブログ「ココロプレス」
<http://kokoropress.blogspot.jp/>

Facebookによるタイムリーな情報発信

24時間365日、いつでもタイムリーに情報発信できるFacebookの利点を活かして「やりました盆踊り実行委員会公式Facebookページ」を運営。実行委員会による、盆踊り練習会の風景から開催告知を行い、また、開催期間中には会場からリアルタイムで画像を投稿。フォロワーとなる「いいね!」の獲得は平成27年9月現在で244件。1件の投稿につき平均300人以上の閲覧者を獲得し、最大で1,000人近い閲覧者を獲得した投稿もあった。



◎やりました盆踊り実行委員会公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/yarimashowbonodori>

公式ブログで報告と詳細情報を発信

河北新報社が運営する「河北新報オンラインコミュニティ」で、自治会の方々との打ち合わせの様子や開催した盆踊りの報告など詳細情報を発信した。



◎やりました盆踊り公式ブログ
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/bon-odori>

特別協賛



やっばり蔵王へ行こう!
合い言葉は **We Love ZAO!**
宮城県蔵王町

一般協賛

